



平成24年9月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年8月8日

上場取引所 東

上場会社名 フィンテック グローバル株式会社

コード番号 8789 URL <http://www.fgi.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 玉井 信光

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 執行役員 経営管理部長

(氏名) 鷲本 晴吾

TEL 03-5733-2121

四半期報告書提出予定日 平成24年8月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年9月期第3四半期の連結業績(平成23年10月1日～平成24年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年9月期第3四半期	1,734	△69.7	△380	—	△314	—	△685	—
23年9月期第3四半期	5,720	98.6	1,573	—	1,531	—	1,657	—

(注) 包括利益 24年9月期第3四半期 △458百万円 (—%) 23年9月期第3四半期 1,581百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年9月期第3四半期	△575.14	—
23年9月期第3四半期	1,376.37	1,375.45

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年9月期第3四半期	6,478	4,108	46.4
23年9月期	7,682	4,870	48.9

(参考) 自己資本 24年9月期第3四半期 3,005百万円 23年9月期 3,756百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年9月期	—	0.00	—	100.00	100.00
24年9月期	—	0.00	—	—	—
24年9月期(予想)	—	—	—	100.00	100.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年9月期の連結業績予想(平成23年10月1日～平成24年9月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	3,560	△49.1	80	△93.7	150	△87.7	280	△80.1	234.56

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 有
新規 一社 (社名) 、 除外 2社 (社名) 合同会社サンデュエル中山、Stellar Capital AG in Liquidation
(注) 詳細は、添付資料4ページ「当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動」をご覧ください。

- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無

(注) 詳細は、添付資料4ページ「会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

- (4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

24年9月期3Q	1,209,243 株	23年9月期	1,209,043 株
----------	-------------	--------	-------------

- ② 期末自己株式数

24年9月期3Q	— 株	23年9月期	— 株
----------	-----	--------	-----

- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

24年9月期3Q	1,191,785 株	23年9月期3Q	1,204,143 株
----------	-------------	----------	-------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項については、四半期決算短信(添付資料)4ページ「連結業績予想に関する定性的情報」をご参照下さい。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報（その他）に関する情報	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	10

1. 当四半期の連結業績等に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、復興関連需要や各種政策などの効果により公共投資や個人消費が上向き傾向にあったものの、欧州債務問題を巡る不確実性が高い中、米国と中国の景気減速やそれに伴う円高が景気を下押しするリスクとなっており、今後の見通しは依然として不透明であります。

このような経済環境において当社グループは、企業を支援するブティック型投資銀行として、国内外の成長企業や事業再生案件への投資、財務アドバイザー（FA）業務、またこれらを相互補完するアセットマネジメント（AM）業務を主として展開しました。第3四半期に入ってから、当社グループが従来より得意とする事業再生案件や建設・開発資金のファイナンスアレンジには恒常的に引合いが続いており、再生可能エネルギー関連のファイナンスアレンジや顧客企業の海外展開支援などにも積極的に取り組んでおります。フィンテックアセットマネジメント(株)は、企業等への投資を目的としたファンドの組成・運営事業を開始し、成長が見込まれる企業に対してフィンテックならではの経営、財務ソリューションを提供し、ファイナンスと事業運営の両面から支援するとともに、投資家にはユニークな投資機会を提供しております。FGIキャピタル・パートナーズ(株)においては、グローバル・マクロ・ファンドが運用成績低迷により成功報酬収益が計上できず、資産運用残高（AUM）の拡大も見込めないことから、当ファンドとの投資一任契約を解除したためAUMは大幅に減少しました。一方で、平成23年11月より提供を開始した投資運用戦略（イベント・ドリブン戦略）の運用成績は好調であり、当ファンドのAUMは漸次増加しておりますが、AIJ問題の影響で独立系運用会社への逆風は強いままであります。また、(株)パブリック・マネジメント・コンサルティングは、地方自治体の窓口として、再生可能エネルギー関連のファイナンスアレンジの引合いルートになっているものの、公会計事業としては黒字化には至りませんでした。

上記のように事業展開したものの、本来の本業であるファイナンスアレンジにおいて大型の案件が当第3四半期中にクローズせず、業績を牽引するに至らなかったことから、当第3四半期連結累計期間（平成23年10月1日～平成24年6月30日）の売上高は1,734百万円（前年同期比69.7%減）となりました。営業損益については、引当済の貸付金の回収により貸倒引当金繰入額をマイナスで計上したことや支払手数料の削減により販売費及び一般管理費が減少したものの、380百万円の営業損失（前年同期は1,573百万円の利益）となりました。経常損益は償却債権取立益52百万円の計上があったため314百万円の経常損失（前年同期は1,531百万円の利益）となり、四半期純損失は685百万円（前年同期は1,657百万円の利益）となりました。

セグメント別の業績は以下のとおりであります。なお売上高については、前連結会計年度まで外部顧客への売上高で表示しておりましたが、第1四半期連結会計期間よりセグメント間の内部売上高又は振替高を含めた売上高で表示しております。また、報告セグメントの名称を、第1四半期連結会計期間より「アセットマネジメント・アドバイザー事業」は「アセットマネジメント事業」に、「プリンシパルファイナンス事業」は「プリンシパルインベストメント事業」に、それぞれ変更しております。

①投資銀行事業

フィンテックグローバル証券(株)は、事業再生案件にかかるFA業務や中堅デベロッパーの開発型のファイナンスアレンジが収益源であります。第3四半期は、大型案件をリピートして受託すべく、開発型ファイナンスアレンジや再生可能エネルギー事業のファイナンスアレンジなどに営業リソースを集中的に投下するも、期中はクローズに至りませんでした。

この結果、投資銀行事業の売上高は146百万円（前年同期比60.8%減）、営業損失は80百万円（前年同期は118百万円の利益）となりました。

②アセットマネジメント事業

フィンテックアセットマネジメント(株)は、外部投資家を招聘し有望企業・事業に投資するファンドを設立、運営する事業を新たに開始しております。著名日本料理人の飲食店経営事業を統括管理する持株会社へ出資するファンドを組成し、運営を開始するとともに、当該会社及びその子会社に対し事業計画策定や経営管理業務等により事業運営を支援しております。

FGIキャピタル・パートナーズ(株)は、グローバル・マクロ・ファンドの投資一任契約の解除によりAUMが減少しております。新投資戦略（イベント・ドリブン戦略）のAUMは漸次増加しておりますが、AIJ問題により新規投資に慎重な年金基金等の投資家が見受けられる状況であります。

この結果、アセットマネジメント事業の売上高は172百万円（前年同期比52.2%減）、営業損失は146百

万円（前年同期は22百万円の利益）となりました。

③プリンシパルインベストメント事業

当社（フィンテックグローバル(株)）は、当第3四半期においてフィンテックアセットマネジメント(株)が組成したファンドへの投資を実行する一方、投資回収においては償却済の債権の回収や長期未回収の貸付案件の回収に成功しております。また、投資先企業に対しては、引続き経営支援により企業価値向上に努めております。

この結果、プリンシパルインベストメント事業の売上高は743百万円（前年同期比80.5%減）、営業利益は172百万円（前年同期比90.9%減）となりました。

④その他投資先事業

株ベルスは、好調な持ち家サービス部門が計画を上回り全体を牽引するとともに、繁忙期に賃貸サービス部門が着実な売上を計上したこともあり、売上高は413百万円（前年同期比5.1%増）、営業利益は67百万円（前年同期比63.0%増）と堅調に推移しました。

Crane Reinsurance Limitedは、当第3四半期においても新たな勘定書に基づく収益費用の認識に至らず、前期までに交付された勘定書により当第3四半期連結累計期間に対応する未経過保険料・保険金、コストを計上しております。このため、売上計上には至らず（前年同期は売上高666百万円）、営業損失は27百万円（前年同期は63百万円の利益）となりました。

FinTech Gimv Fund, L.P. (FGF)は、第2四半期での投資先企業の株式売却等により、売上高は322百万円、営業利益は227百万円となりました。

これらの主な子会社及び他の子会社の経営成績により、その他投資先事業の売上高は738百万円（前年同期比30.5%減）、営業利益は215百万円（前年同期は4百万円の損失）となりました。

⑤公共財関連事業

株パブリック・マネジメント・コンサルティングは、総務省の「今後の新地方公会計の推進に関する研究会」の答申待ちの地方自治体が多く、契約件数は伸び悩みました。他方、地方自治体以外で官庁会計を利用するマーケットにおいては順調に契約が増加し、売上を押し上げました。

この結果、公共財関連事業の売上高は168百万円（前年同期比7.2%増）、営業損失は76百万円（前年同期は24百万円の損失）となりました。

今後は継続して地方自治体以外で官庁会計を利用するマーケットでの契約を増やしつつ、新地方公会計セミナーなどを通じ潜在的なニーズの発掘に努め新規顧客獲得を目指していきます。さらに、他のシステム会社との業務提携によるセグメント別行政コスト・自動計算ソフト「改革」の販売強化や、システムエンジニアリングの一部業務の外部委託などによる効率化を推進していきます。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(総資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は6,478百万円（前連結会計年度末比15.7%減）となりました。これは主として、投資回収により販売用不動産が420百万円、未収入金が1,488百万円、無形固定資産ののれんが195百万円減少したものの、現金及び預金が792百万円、営業投資有価証券が314百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債は2,369百万円（前連結会計年度末比15.7%減）となりました。これは主として、未払金が239百万円、保険契約準備金が129百万円減少したものの、預り金が224百万円増加したことによるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産は4,108百万円（前連結会計年度末比15.6%減）となりました。これは主として、四半期純損失及び利益配当により利益剰余金が804百万円減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

上記の通り、連結業績は厳しい進捗ではありますが、当第3四半期決算発表時点においては、平成23年11月14日に公表しました業績予想を修正いたしません。

第4四半期においては、既存投資先の売却案件をはじめとして、事業再生案件のアレンジや当社グループの得意とする開発型案件のアレンジなど、複数の大型案件をそれぞれ並行して取り組んでおります。各案件の進捗の遅れにより期ずれとなる場合には、現在の予想値を下方修正する可能性があります。これらの案件が順調に進捗する場合には、予想値を上方修正することもあると考えております。このように、案件の進捗を慎重に見極めている現段階においては確定的な予測は難しく、連結業績予想は修正しないことといたしました。

また、当社グループは現在、来期以降の業績安定化のための営業基盤の強化に取り組んでおります。すでに、中堅デベロッパーの旺盛な資金需要に応える開発型ファイナンスアレンジや、再生可能エネルギー関連のファイナンスアレンジのように、継続的、連続的に引き合いが期待できる大型の案件を確保しつつあります。また、中小・中堅企業を対象にした事業継承・M&A支援などのコンサルティング業務や金融商品の販売強化にも努めております。さらに、販売チャネル及び投資家層拡大のため、中小・中堅企業のニーズを把握する会計事務所や、公会計事業を通して関係が深い地方自治体等へアプローチを開始しています。

これらの取組みにより、本来の主力事業であるファイナンスアレンジで経常的な収益を計上しつつ、年間数件の投資エグジットで収益を上乗せしていく利益構造を構築していく所存であります。

2. サマリー情報（その他）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

合同会社サンデュエル中山は、平成24年1月31日をもって清算終了したため、第2四半期連結会計期間より、連結の範囲から除外しております。また、Stellar Capital AG in Liquidation は、平成24年6月6日をもって清算終了したため、当第3四半期連結会計期間より、連結の範囲から除外しております。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計基準等の改正に伴う会計方針の変更)

第1四半期連結会計期間より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」（企業会計基準第2号 平成22年6月30日）及び「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第4号 平成22年6月30日）を適用しております。

潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定にあたり、一定期間の勤務後に権利が確定するストック・オプションについて、権利の行使により払い込まれると仮定した場合の入金額に、ストック・オプションの公正な評価額のうち、将来企業が提供されるサービスに係る分を含める方法に変更しております。

なお、当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失を計上しているため開示しておりません。

(追加情報)

会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用

第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」（企業会計基準第24号 平成21年12月4日）及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日）を適用しております。

連結納税制度の適用

第1四半期連結会計期間より、連結納税制度を適用しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,804,161	2,596,279
売掛金	125,682	146,879
営業投資有価証券	2,002,744	2,317,686
販売用不動産	420,531	—
繰延税金資産	1,049	5,059
営業貸付金	2,707,235	2,536,752
その他	1,686,260	182,230
貸倒引当金	△2,091,453	△2,028,545
流動資産合計	6,656,212	5,756,342
固定資産		
有形固定資産	169,408	155,901
無形固定資産		
のれん	473,509	277,536
その他	29,335	20,923
無形固定資産合計	502,844	298,460
投資その他の資産		
投資有価証券	84,033	52,819
その他	269,995	214,675
投資その他の資産合計	354,029	267,494
固定資産合計	1,026,282	721,856
資産合計	7,682,494	6,478,198

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成23年9月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	24,356	14,389
短期借入金	55,000	40,000
1年内返済予定の長期借入金	81,837	2,004
1年内償還予定の社債	—	16,000
未払法人税等	15,812	20,483
預り金	490,755	715,574
賞与引当金	26,251	27,201
その他	482,528	124,498
流動負債合計	1,176,541	960,151
固定負債		
社債	—	64,000
長期借入金	45,157	3,654
繰延税金負債	74,123	79,300
退職給付引当金	86,097	95,471
保険契約準備金	1,286,699	1,157,180
その他	142,985	9,468
固定負債合計	1,635,063	1,409,075
負債合計	2,811,604	2,369,227
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,312,384	2,312,517
資本剰余金	5,183	5,183
利益剰余金	1,671,501	866,892
自己株式	△52,412	△52,412
株主資本合計	3,936,656	3,132,180
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△629	31,803
為替換算調整勘定	△179,243	△158,122
その他の包括利益累計額合計	△179,872	△126,318
新株予約権	18,091	17,837
少数株主持分	1,096,015	1,085,272
純資産合計	4,870,890	4,108,971
負債純資産合計	7,682,494	6,478,198

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 四半期連結損益計算書
 第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年10月1日 至平成23年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年6月30日)
売上高	5,720,461	1,734,834
売上原価	2,556,213	683,850
売上総利益	3,164,248	1,050,983
販売費及び一般管理費	1,591,155	1,431,280
営業利益又は営業損失(△)	1,573,092	△380,296
営業外収益		
受取利息	3,767	3,353
償却債権取立益	—	52,751
その他	6,353	16,656
営業外収益合計	10,120	72,761
営業外費用		
支払利息	38,482	2,841
有価証券運用損	1,134	—
支払手数料	1,975	3,982
その他	10,057	370
営業外費用合計	51,649	7,194
経常利益又は経常損失(△)	1,531,563	△314,729
特別利益		
新株予約権付社債償還益	298,800	—
新株予約権戻入益	3,874	866
その他	119,071	188
特別利益合計	421,746	1,055
特別損失		
関係会社株式評価損	15,266	56,212
投資有価証券売却損	226,874	—
のれん償却額	—	126,767
その他	49,587	26,364
特別損失合計	291,727	209,344
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	1,661,581	△523,019
法人税、住民税及び事業税	35,123	22,312
法人税等調整額	8,821	1,167
法人税等合計	43,945	23,479
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	1,617,636	△546,498
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△39,711	138,946
四半期純利益又は四半期純損失(△)	1,657,347	△685,444

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年10月1日 至平成23年6月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年10月1日 至平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失(△)	1,617,636	△546,498
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	12,925	29,551
為替換算調整勘定	△48,790	58,289
その他の包括利益合計	△35,864	87,841
四半期包括利益	1,581,771	△458,657
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,640,523	△631,891
少数株主に係る四半期包括利益	△58,751	173,233

(3) 継続企業の前提に関する注記
該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 平成22年10月1日 至 平成23年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	投資銀行 事業	アセット マネジメ ント 事業	プリンシパ ルインベス トメント 事業	その他 投資先 事業	公共財 関連 事業			
売上高								
外部顧客への 売上高	358,499	355,101	3,796,817	1,059,462	150,579	5,720,461	—	5,720,461
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	13,923	5,715	9,085	2,700	6,214	37,637	△37,637	—
計	372,422	360,816	3,805,902	1,062,162	156,794	5,758,098	△37,637	5,720,461
セグメント利益 又は損失 (△)	118,539	22,199	1,885,708	△4,859	△24,886	1,996,700	△423,608	1,573,092

(注) 1 セグメント利益又は損失 (△) の調整額△423,608千円には、セグメント間取引消去283,077千円及び報告セグメントに配分していない全社費用△706,685千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整しております。また、フィンテックグローバル(株)に対する経営指導料としてそれぞれ投資銀行事業135,000千円、アセットマネジメント事業136,200千円、公共財関連事業13,500千円を負担しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間（自 平成23年10月1日 至 平成24年6月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	投資銀行 事業	アセット マネジメ ント 事業	プリンシパ ルインベス トメント 事業	その他 投資先 事業	公共財 関連 事業			
売上高								
外部顧客への 売上高	111,737	153,610	565,716	735,754	168,015	1,734,834	—	1,734,834
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	34,400	18,790	177,487	2,700	—	233,378	△233,378	—
計	146,137	172,401	743,203	738,454	168,015	1,968,212	△233,378	1,734,834
セグメント利益 又は損失 (△)	△80,727	△146,691	172,436	215,401	△76,665	83,754	△464,050	△380,296

(注) 1 セグメント利益又は損失 (△) の調整額△464,050千円には、セグメント間取引消去95,310千円及び報

告セグメントに配分していない全社費用△559,361千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

- 2 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整しております。また、フィンテックグローバル(株)に対する経営指導料としてそれぞれ投資銀行事業113,000千円、アセットマネジメント事業100,000千円、その他投資先事業10,500千円、公共財関連事業45,000千円を負担しております。
- 3 報告セグメントの名称変更
報告セグメントの名称について、より適切に事業内容を表示するため、第1四半期連結会計期間より「アセットマネジメント・アドバイザー事業」については「アセットマネジメント事業」に、「プリンシパルファイナンス事業」については「プリンシパルインベストメント事業」に、それぞれ変更しております。なお、前第3四半期連結累計期間の報告セグメントの名称についても、当該変更後の名称で表示しております。
- 4 報告セグメントの記載順番の変更
報告セグメントは従来、「投資銀行事業」、「アセットマネジメント事業」、「公共財関連事業」、「プリンシパルインベストメント事業」、「その他投資先事業」の順番で記載しておりましたが、当社グループにおける経営強化事業の見直しに併せて、報告セグメントの記載順番の見直しを行い、第1四半期連結会計期間より「投資銀行事業」、「アセットマネジメント事業」、「プリンシパルインベストメント事業」、「その他投資先事業」、「公共財関連事業」の順番に変更致しております。なお、前第3四半期連結累計期間の報告セグメントの記載順番についても、当該変更後の順番で表示しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

連結子会社であるFGIキャピタル・パートナーズ(株)の株式を個別財務諸表上で減損処理したことに伴い、連結にて当該子会社に係るのれんの未償却残高を一括償却し、特別損失に計上したことにより、「アセットマネジメント事業」セグメントにおいてのれんの金額が減少しております。

なお、当該事象によるのれんの減少額は、126,767千円であります。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。